

月を愛でる-その1

民話の会 仲山 富夫

仲良しの皆様へ

早いもので、三月（弥生・夢見月・桃月・雛月等の異称も風情があって良いですね）を迎えました。

「ふんとに早いですね！」

数年前から花粉症を持ちまして、今年は特にひどい症状です。毎日鼻づまりで頭が「ボォ〜」として気が入りません。どこへも出かける気にもなりません。雑誌を読んでいましたら「月の影（黒く見える部分）の模様を世界の人たちはどう見ているか？」が載っていました。

面白いので紹介します「ちょいとの時間をください」。

韓国は、日本同様に餅を搗くウサギに見えるそうですが、中国ではウサギが薬草を挽いているそうです。南ヨーロッパでは、大きなハサミのカニ（これは解る！）、東ヨーロッパでは、女性の横顔（解らないよ？）、ドイツでは芝を背負ったおじいさん（え〜？）に見えるそうです。益々頭がボォ〜としてきました。

皆さんは、どんな模様に見えますか？

勿論、わたしは母から聞いていた餅を搗いているうさぎさんです。「メルヘンだぁー」

他の国の皆さんには、次のように見えるそうです。

- * モンゴル=イヌ
- * インドネシア=編み物をしている女性
- * ベトナム=木の下で休む男性
- * インド=ワニ
- * カナダの先住民=バケツを運ぶ少女
- * 中南米=ロバ
- * アラビア=吠えているライオン

「うーん、そう見えますか？ 昔の人々は楽しんで見ていたのでしょうかね。」

因みに、3月14日（金）が満月（ワームムーン）です。晴れます様に。

「それではみなさん、お付き合いありがとうございました。」

次回、月を愛でる-その2でお会いしましょう。」

